

ふーぬ風

発行 〒901-1115
 沖縄県南部農業改良普及センター
 TEL：(098) 889-3515
 FAX：(098) 835-6010

平成26年度 南部地区園芸推進講演会開催



平成26年8月14日（木）、糸満市農村環境改善センターにおいて、『南部地区園芸推進講演会』が開催され、約140名近くの生産農家および関係機関からの参加がありました。

沖縄県農業研究センターから研究員を招き、現場要望の高い研究成果について4演題を発表して頂きました。質疑応答も活発に行われ、盛り上がった講演会となりました。

当講演会は、昨年度から県農業研究センターが研究開発した技術等について地域への普及推進を目的に、関係機関と連携し行っています。

1 園芸施設の台風対策と長期活用技術～骨材編～ 農業システム開発班 主任研究員 玉城磨氏

2 わい性サヤインゲンのジベレリン2回処理による増収効果 野菜花き班 班長 玉城盛俊氏

3 キクの害虫クログエハナアザミウマに対する薬剤防除対策 病虫管理技術開発班 主任研究員 貴島圭介氏

4 マンゴー軸腐病に対する薬剤体系散布の防除効果 病虫管理技術開発班 主任研究員 澤岷哲也氏



1 園芸施設の台風対策と長期活用術～骨材編～

園芸施設を台風等の強風から守るために必要な保守点検に着目し、老朽化すると強風の圧力に対して園芸施設が耐えられる目安である耐風速が低下することから、施設に潜む問題点、初期対策・補修方法の例が紹介されました。

2 わい性サヤインゲンのジベレリン2回処理による増収効果

わい性サヤインゲンにおけるジベレリンの登録拡大が認められ2回処理が可能になったことから、ジベレリン2回処理技術の方法と草丈および節間伸長促進効果・収量増収効果とその要因が紹介されました。

3 キクの害虫クログエハナアザミウマに対する薬剤防除対策

キクの葉に被害を与えるアザミウマ類の内ほとんどがクログエハナアザミウマです。薬剤の効果は高いが圃場での散布むらがあることから、防除効果の高い散布方法と防除対策が紹介されました。

4 マンゴーの軸腐病に対する薬剤体系散布の防除効果

マンゴーの軸腐病の病原菌は枝や果実の傷口から感染し胞子が飛散して伝染します。開花初期からの薬剤ローテーション散布が発病抑制に期待できることから、軸腐病菌に効果の高い薬剤を使った薬剤体系散布と耕種的防除体系が紹介されました。

（園芸技術普及班：山城弘樹）



ストレリチア立枯れ対策



ストレリチア立枯れの発生は、未熟有機物の多量施用、圃場の排水不良、台風による根痛みなどが引き金となり、主因となる疫病菌に犯され、枯死するものと考えられます。

一旦発病した株を治療することは困難なため、予防に重点を置いた耕種的防除に加えて、薬剤による定期防除を行っていくことが重要です。

◆被害拡大を防ぐために

1. 未熟有機物の施用は行わない。

未熟有機物の施用は、根痛みをおこしたり、土壤病原菌を増殖させ発病を助長させますので、使用は避けるようにして下さい。

2. 定期薬剤散布の実施。

立枯れの予防策として、定期的な薬材散布(1~2ヶ月に1回程度)は、有効ですので、習慣付けて実施するようにして下さい。

3. 病気株の早期除去。

病気症状(葉の萎れ・変色)が見られた株は、薬剤処理を行っても、回復はしません。そのため症状が見られたら、早期に株を除去するようにして下さい。

4. 補植には、鉢上げ養成苗を使用。

鉢上げ養成苗は、根痛みや株弱りが少なく、定植直後の立枯れ発生率が少ないため、補植苗には鉢上げ養成苗を推奨しています。

5. ほ場排水対策の徹底。

ストレリチアは元々水はけの良い土壌を好むため、排水不良のほ場では、生育不良を起こしやすくなります。土壌の排水が悪いと、土壤病害の発生を助長しますので、排水改善を行うようにして下さい。

病気の症状が見られた株は早期に除去を行って下さい！



1. 発病株



2. 株間にスコップを入れ、除去



3. 残渣はなるべく取るようにする。



4. 処理後は殺菌剤をたっぷりかん注する。

- 立枯れの症状(葉の萎れ、変色)が見られたら、早期に発病している株の除去作業を行う。
- 株を除去するときは、病気株の残渣物はなるべく堀取り、焼却処分する。ほ場内に残さないで下さい。
- 株を除去後、殺菌剤を散布するようにして下さい。

トマト黄化葉巻病の防除対策について

トマト黄化葉巻病の発生が多く見られます

今期のトマト栽培が始まりましたが、近年、トマト圃場ではトマト黄化葉巻病の発生が多く見られます。下記の防除対策を徹底しましょう。

1. 被害と生態

- (1) タバココナジラミによって媒介されるウイルス病である。
- (2) 主に生長点近くの上位葉に黄化、葉巻、萎縮の症状が現れる。
- (3) 節間が縮まったり、落花するために結果しにくくなる。
- (4) 感染してから病徴が現れるまでに2～3週間程度かかる。
- (5) 一度感染すると治らない。
- (6) 汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしない。
- (7) 媒介虫のタバココナジラミは、年10数回以上の発生をくりかえし、特に施設内で多発しやすい。



罹病株



上位葉の黄化、葉巻、萎縮症状



媒介虫の
タバココナジラミ

2. トマト黄化葉巻病の防除対策(タバココナジラミを、入れない、増やさない、出さない。)

対策1: タバココナジラミを入れない

- ・施設開口部には目合いの細かいネットを使用し、特に、入口は2重カーテンをする。
- ・ビニールやネットの破れは補修する。
- ・UVカットフィルムの展張や反射シートの施設周辺設置でコナジラミ侵入防止する。
- ・感染が疑われる苗は使用しない。

対策2: タバココナジラミを増やさない

- ・黄色粘着板等でコナジラミの発生確認を行う。
- ・コナジラミの発生源となる施設内外の雑草除去。
- ・登録薬剤による防除を行う(トマトとミニトマトでは登録内容が異なるので注意)
散布履歴、収穫前日数などを確認する。
同系統薬剤を連用しない。
- ・育苗、定植時に粒剤を施用し初期防除を行う。
- ・成虫は上中位葉に多いが、幼虫は中下位葉の葉裏にいるため株全体の葉裏に薬剤が付着するように丁寧に散布する。

対策3: タバココナジラミを出さない

- ・トマト栽培終了後、施設から外に出るタバココナジラミの多くは、黄化葉巻病ウイルスを持っており、次年度に影響する。
- ・トマト栽培終了後は、タバココナジラミを薬剤防除したうえで、トマトを誘引した状態のまま抜き取り、施設を1～2週間密閉して、蒸し込み処理する。
- ・蒸し込みは、タバココナジラミのすみかとなる雑草は除去して行う。

対策4: 感染株と野良生えトマトの除去

- ・病気の株は感染源となるため、早急に抜き取る。
抜き取った株は放置せず、必ずビニール袋などに入れ、密封して処分する。
- ・施設内外の管理されていないトマトやミニトマトは黄化葉巻病やコナジラミの発生源となるため除去する。密封して処分する。



感染株

野良生えトマト

牧草地に甚大な雑草害を及ぼすギンギシの防除方法

ギンギシは牧草地に甚大な雑草害を及ぼすタデ科の多年草です。年内の最終番草を刈り終えた11月以降の冬期に株の栄養生長、生殖生長が盛んになります。

1株あたり2万粒の種子を形成し、種子と根茎の両方により繁殖するので、一旦は少数でも、定着して放っておくと爆発的に増加します。またシュウ酸を含むので、牛が多量に摂取するとシュウ酸中毒を引き起こす恐れがあります。



DPX水和剤はアミノ酸合成阻害、MDBA液剤は光合成阻害等、植物が持っている働きに作用するので人間や家畜に対して安全性が高いとされていますが、使用上の注意を十分に確認願います。



このことからギンギシを発見した場合、早急かつ適切な防除対策が必要となります。

ギンギシの増殖を抑えるための基本的な対策として、牧草地に種子を落とさない(花穂は早めに摘み取る。ディスクモアの使用後は残草を回収する。)ことが挙げられますが、既に繁茂している時は、選択性除草剤のDPX水和剤(商品名:ハーモニー)やMDBA液剤(商品名:バンパルーD)を用いればローズグラスなどイネ科牧草を枯らさずにギンギシを除去することが可能です。ギンギシは休眠性を持つので、2年間継続して選択性除草剤を散布すると効果的です。



農業経営の多角化

6次産業化にチャレンジ!



Q1.農業の6次産業化ってなあに?

- A 1. **農業・農村の多面的機能(図1)** を活用して、
 農業者が**企画者(中心)**となり、
 二次産業(製造業等)や三次産業(小売・サービス業等)
 が連携して行う。
農業者の「所得向上」や
農村の「地域活性化」を目指した取り組みのこと。



図1: 農業・農村の多面的機能(農産物生産だけじゃない?)

「農林漁業者等による農林漁業の六次産業化の促進に関する法律」より抜粋

Q2.国の6次産業化の目標と取り組みとは?

- A 2. **目標:** 1兆円(H24)市場を → 10兆円(H32年)へ
 (加工原料含む青果市場8兆円を上回る目標!)
- 取り組み:** **総合化計画※1**の認定者を優先に、下記①②に必要な補助事業等への応募資格を与える。
- ① 農業者が **生産・加工・流通(販売)を一体化**させて、所得を増やす(経営の多角化、複合化、輸出等)
 - ② 農業者が **二次・三次産業と連携**し、新たな産業を作る(農商工連携や地域ぐるみで組織的な取り組み)
- 上記①②とも **新商品 + α新しい流通方法・販売方法(図2)**が条件
 「我が国の食と農林漁業再生のための基本方針・行動計画」より抜粋

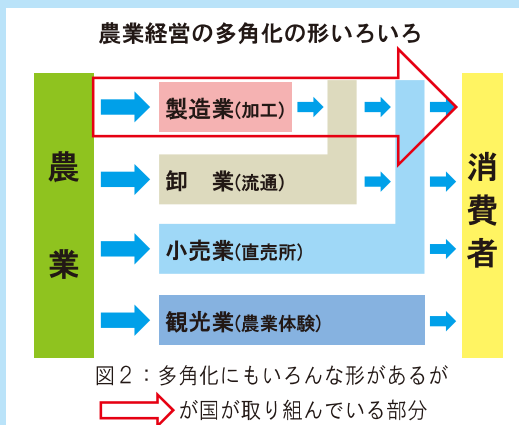


図2: 多角化にもいろんな形があるが
 が国が取り組んでいる部分

※1 総合化計画とは、沖縄総合事務局で申請受付・認定しており、沖縄県6次産業化サポートセンターで相談対応している。
 沖縄県6次産業化サポートセンター: <http://www.okinawa-6sapo.com/index.html> (☎868-1901)

Q3.普及センターではどんな支援を行っているの?(H26.8月現在)

- A 3. ① 新たに加工を始めたい農家や起業開始5年未満農家を対象に **アグリチャレンジ講座**を開催し、**加工知識・技術習得**、同じ悩みを持つ**仲間のネットワーク作り**、**情報提供**等を支援しています。
- ② **「みなみの味グリーン・ツーリズム」※2**という南部地区加工・体験起業農家組織の事務局として、農家自身が企画した勉強会や視察、なんぶのはるみち農業・農村体験開催の支援をしています。
- ③ 個別農家だけでなく、産地で取り組まれている販売促進活動の相談対応と支援をしています。
- ④ 「起業」から「企業」への志向農家は、県流通・加工推進課や商工団体と連携して支援します。

※2 みなみの味グリーン・ツーリズムホームページ: <http://minaminoaji.com/> ブログ: <http://minaminoaji.ti-da.net/>

産地支援事例:「ぐしちゃんいい菜®生産組合の販売促進・試食会の開催支援」

産地育成支援を行っている生食用新品種カンダバー「ぐしちゃんいい菜®」の販売促進PRのため、平成26年5月29日(木)12:00~14:00、ザ・サザンリンクスリゾートホテルにて、青果物流業者や学校給食関係者等約70名を対象に、料理14品の試食会開催を支援しました。



(地域特産振興班:儀間宏美)

平成26年度沖縄県青年農業士・指導農業士・女性農業士 認定者紹介

平成26年9月3日に、沖縄県庁にて沖縄県農業士等の認定式が行われ、南部地区から指導農業士2人、名誉女性農業士1名が認定されました。

今後も地域農業のリーダー、農業青年や新規就農者の指導者としての活躍が期待されます。

平成26年度沖縄県農業士等認定式 (H26.9.3)



指導農業士：^{しまぶくろ まさはる} 島袋 政春（久米島町 サトウキビ・甘藷）

平成12年から農業機械士として農業生産法人((有)久豊会)に所属し、地域のサトウキビ生産を牽引してきました。平成20年からは甘藷栽培を開始し、JA久米島甘藷部会の先進的な農家としてリーダー的立場にいます。平成23年には第10回久米島町産業まつりにてサトウキビ部門の特別表彰を受けており、出荷量及び品質ともに常に上位の成績を上げています。地域農家の受託作業なども行っており地域からの信頼も厚く農業に対して妥協しない姿勢は周りの農家の模範となっています。



指導農業士：^{しまぶくろ まさのぶ} 島袋 政信（久米島町 花卉(キク)）

久米島町でキク栽培を営んでいます。
昭和60年の就農当時は、旧具志川村4Hクラブの会長を務めながら、技術指導や仲間づくり・後継者育成など積極的に取り組んできました。
平成15年には県立農業大学校の実習生を積極的に受け入れキク栽培の技術指導を行っています。平成24年には、沖縄県花卉園芸農業協同組合久米島支部(太陽の花)の支部長を務めキク栽培の技術の向上を図る勉強会やキク生産者との話し合いをするなど積極的に取り入れ常に技術向上、生産向上を目指しています。



名誉女性農業士：^{あらかき のぶこ} 新垣 信子（南城市 野菜）

大里村農業委員を6年間務め、その後に南城市として統合した後も南城市農業委員を4年間務め、合計10年間を女性農業委員として地域の農業振興に尽力してきました。また平成26年度からは、稲嶺地区水利組合役員として活動しています。
南部地区農業士会では、平成23年度から24年度まで会計を務め、現在は監事として会の活動を支援している他、若手女性農業者勉強会での講師や農業大学校の女生徒の研修受入れ等、女性の担い手育成にも貢献しています。

北海道先進地視察研修

by 南大東農業機械士協議会



国際農業機械展

南大東村は、さとうきびの機械化一貫作業体系が確立された県内外でも有数の産地です。その担い手の中核となる農業機械士協議会の現在の会員は29名で、今年度は新たに20名の会員が増える見込みです。今後はさらに農業機械士協議会の活発な活動が期待されます。その活動の中で、①最新の省力化・低コストの農機具の情報収集、②次世代の担い手育成、③農機具の安全使用マニュアルの習得等、会員の資質向上を図る目的で4年に1度開催される国際農業機械展(北海道帯広)に各世代から18名の会員が参加しました。日本の農業を支える全国の担い手が集まる中、刺激を受けながら、メーカーや会員間で南大東島に合った農業機械について積極的に意見交換を行いました。



先進農家視察

快く視察依頼を受けて頂いた北海道十勝農業改良普及センターにおいて十勝管内の農業概要や普及センターの取組みについて説明を受けました。日本の食料基地である十勝農業の規模に圧倒されながらも、法人化を目指す若手農業者や強い農業経営を目指す若手農業者を支援し、地域のリーダーを育成する目的で設立された法人組織(TACS)を普及センターが支援している点が参考になりました。その後、管内の優良農家である(株)泰章農場の圃場を訪問しました。ビート、小麦、大豆、畜産の大規模複合経営で農閑期は肥料製造・販売をしている法人です。社長の経営理念や今後の展望について話を聞くことができ、参加した会員にとって今後の自分の経営について見つめ直す良い機会でした。



(南大東村駐在: 亀山健太)

農家紹介

へちま・かぼちやの産地を支える神里繁さん ～南風原町山川～

南風原町山川出身の神里繁さんは、八重瀬町の圃場で約15年前からかぼちや、へちまを栽培しています。就農当初から妻の弘子さんと共に農業に従事しており、「ふたりで農業をすることで作業効率が良く、とても助かっている」と笑顔で話してくれました。農業経験が浅い就農当初は苦労もあったようですが、地域の先輩や同年代の仲間に助けをもらいながら技術を身につけた経験から、人とのつながりを大切にしていると語っていました。農業の厳しさもあるが、今は時間の自由がきく農業にやり甲斐を感じているそうです。



現在の経営規模は約3,000坪の露地と約300坪の施設で、へちま、かぼちやを中心にとうがんやキャベツを栽培しています。また、平成25年から南風原町地域農

業活性化事業で導入したハウスでのへちま栽培を始めています。これまでの露地栽培と違って花粉づけなどの作業が多く苦労しているようですが、初年度の反省を踏まえて改善していきたいと抱負を語ってくれました。



へちまの収穫風景

(普及企画班:仲本優子)

農家紹介

安全なピーマンのブランドづくり ～八重瀬町・伊森正秀・貴子夫妻～

八重瀬町具志頭慶座の高台でピーマン栽培を営む伊森さん夫婦。青い太平洋を東に望む慶座地区土地改良区に鉄骨ハウス3,440㎡(1,042坪)の5棟を所有しています。エコファーマーの認定を受け、①太陽熱利用による土壌消毒の実施(7～8月)、②微小害虫の進入・繁殖防止対策として紫外線カットフィルムの使用、ハウス周囲の反射シート設置、側窓天窗の0.6mmネット張付け、出入り口の二層カーテン(0.6mm)の設置、ハウス内の粘着トラップの吊下げを実施しています。③また平成24年度の台風被害株に「切り戻し栽培(仮称)」を行い大きな成果を納めています。JA具志頭支店のピーマン生産部会員はエコファーマーの認定を取得しており、伊森夫妻の栽培管理法をモデルとして邁進しています。

ピーマン栽培管理の目標

- ①太陽熱利用の土壌消毒による立枯れ防止
- ②物理的防除による微小害虫進入・繁殖防止
- ③台風被害株の「切り戻し栽培」の技術確立



(園芸技術普及班:金城實秋)